

## 天敵（コレマンアブラバチ製剤）を利用したトマトのアブラムシ類防除

農業・園芸総合研究所

### 1 取り上げた理由

トマトの主要害虫であるアブラムシ類の防除にあたって、天敵製剤の有効性を確認したのでその利用技術を参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) 夏秋雨よけ栽培において、アブラムシ類（ワタアブラムシ及びモモアカアブラムシ）の防除対策には寄生性天敵コレマンアブラバチ製剤の利用が有効である（図 - 1, 2）。
  - a 放飼方法：施設内で容器を開封し、アブラムシの発生した株を中心に、株元の地表面に容器ごと静置する。
  - b 放飼時期：アブラムシが散見され始めた発生初期に放飼する。
  - c 放飼量：10 a 当たり1,000頭を1週間間隔で2～3回放飼する（1回の放飼につき天敵製剤「アフィパール」で2本分、「アブラバチAC」及び「コレトップ」で4本分）。

### 3 利活用の留意点

- 1) トマトで使用できるコレマンアブラバチ製剤は「アフィパール」、「アブラバチAC」、「コレトップ」である（いずれの製剤も「野菜類（施設栽培）」として登録）。
- 2) 天敵製剤は入手後直ちに放飼する。
- 3) コレマンアブラバチはワタアブラムシやモモアカアブラムシには高い寄生性を有するが、ヒゲナガアブラムシ類に対しては効果がないので、発生しているアブラムシの種を確認する。
- 4) 天敵放飼後は天敵に影響のある薬剤は散布しない。また、天敵放飼前に天敵に影響のある薬剤を散布した場合、残効による影響期間を経過した後に放飼する。
- 5) 製剤の価格は3回放飼で10 a 当たり約3万円程度（労働費は約500円（約30分））である。

（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話 022-383-8123）

#### 4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題及び研究期間 みやぎの環境にやさしい農産物栽培技術の確立 - 野菜編 2 - 平成 15 年 ~ 17 年

2) 参考データ

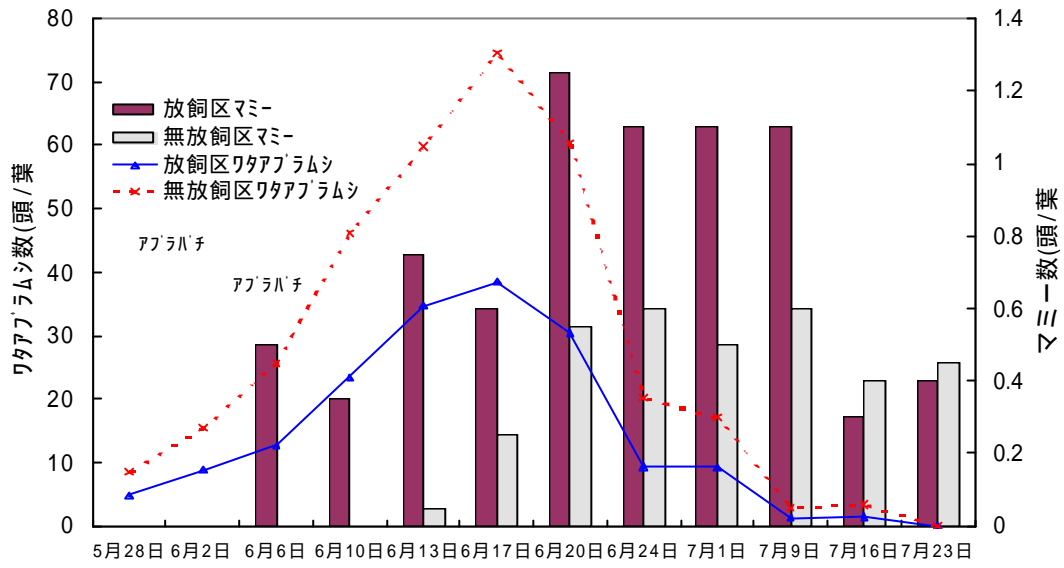


図-1 ワタアブラムシとコレマンアブラバチの発生推移(2003年)

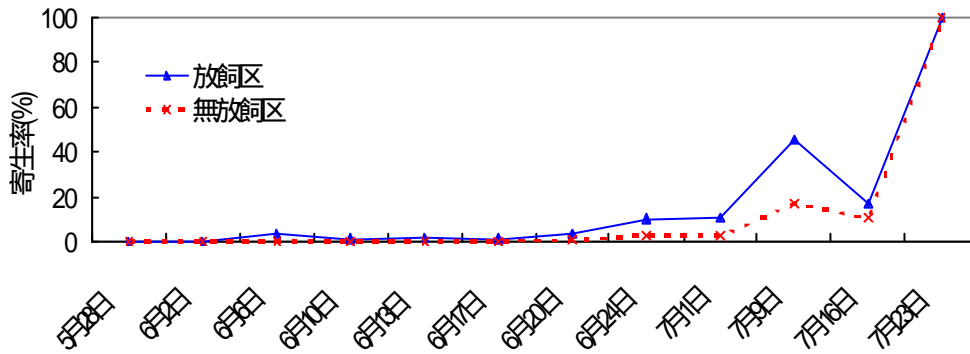


図-2 コレマンアブラバチの寄生率の推移(2003年)

3) 発表論文等  
なし